

研 修 報 告 書

令和6年7月20日

長浜市議会議長 中 川 勇 様

長浜市議会議員 松 本 長 治

私が出席した次の研修視察の結果について報告します。

記

1. 研修等名 令和6年度 会派視察研修
2. 研修期間 令和6年7月8日(月)～7月9日(火)
3. 研修場所及び目的
「備北メディカルネットワーク医療連携について」
一般社団法人三次地区医師会(広島県三次市)
「完全個室化病院の運営について」 みとよ市民病院(香川県三豊市)
「閉校後の施設利活用について」 のじまスコーラ(兵庫県淡路市)
4. 調査内容感想等
・研修の目的

【一般社団法人三次地区医師会】

広島県の東北部、備北(三次市・庄原市)の二次医療圏域で急性期機能を持つ4病院(市立三次中央病院・三次地区医療センター・庄原赤十字病院・西城市民病院)から構成される医師確保対策などに対応する、地域医療連携推進法人(備北メディカルネットワーク)について、設立までの経緯と現状についてお聞きしたい。

【みとよ市民病院】

現在、長浜市立湖北病院の改築が計画されていますが、従来の病院との大きな変更点が、病室の個室化である。病院の規模や周辺の環境が近いと思われる当病院に伺い、個室化にされた経緯や、数々の問題解決のために協議をされた内容。また、現在の状況について教えていただきたい。

【のじまスコーラ】

民間の事業者による地方創生の試みとなる、廃校となった小学校をリノベーションし、地産地消を

長 浜 市 議 会

コンセプトにした豊富な野菜や淡路島食材を提供される SDGs の取り組み。施設の 1 階から 3 階まで小学校の面影を残しつつ、レストランや商品販売、グラウンドには小動物園などが設置され、全国から多くの方が来られている現状から、今後の市の保有する施設利用の参考にしたい。

・研修内容

【一般社団法人三次地区医師会】

初期臨床研修医制度の開始により、広島県の研修医の採用者数は大きく落ち込み、医局人事による医師派遣、特に中山間地域の医療機関では困難となった。そこで 2011 年に広島県内陸部と島根県にある 10 病院の病院長が集まり、地域の医療崩壊を食い止め、住民に安心して生活してもらえる地域医療の確保を目指して、「広島中山間地病院長コンソーシアム」が設立された。

地域医療連携推進法人のメリットは、煩雑な手続きをすることなく医師派遣という診療支援が可能で、多職種を含め積極的に人的交流をはかるには非常に役に立つ制度とのこと。また、地域医療連携推進法人の事務手続きは、広島県健康福祉局の全面的な支援のもと、参加病院の事務長などの協議で速やかに行われた。また、参加病院の開設者は三次市、庄原市、日本赤十字社、三次地区医師会であり、法人設立に簡単に同意できたのかという点については、あくまでも医療人材の確保育成を目的としており、財務・人事等には関係しない連携を目指し、また議会承認の必要はないとの説明をされ、了解を得たとのこと。中でも、日赤本社を説得するには厚生労働省医政局の力添えが必要であり、庄原赤十字病院は少し遅れて連携推進法人への参加となった。

現在、この連携は地域の開業医の皆さんの協力も含め、全体で地域医療を守るとの強い思いで成り立っており、県の強いリーダーシップが不可欠であるとも話しておられた。

【みとよ市民病院】

病室の全室個室を実現するということは、コスト高の病院となることが危惧される。そこで、総事業費 40 億円の実現を目指したローコストでの病院建築を行うため、コスト削減ノウハウを導入する ECI 方式を導入された。病床数は 199 床から 122 床に縮小、病室の個室による差額ベッド代は取らないこと。あくまでも古くて汚く入院したくない病院から、入院して療養したい病院に変わることを目指されたとのこと。

2020 年 10 月に起工式が行われ、2022 年 3 月に建物が完成し引き渡しが行われた。建設期間中、新型コロナウイルスのまん延という事態が発生したが、最終的に当初想定の前定金額である、建物・外構工事 40 億円（消費税別）の枠内に収めることができたとのこと。

全室個室でコストを抑えるための努力として、トイレの位置の関係から窓が狭いという点も、看護に携わる職員の協議で進められたというお話や、トイレは入院患者の多くがオムツを使う高齢者であることから、職員の提案により 3 分の 1 の部屋に設置し、残りは配管を入れただけの状態になっているとの点など、働く方々の意向が反映されていることがよく理解できた。

現在、個室である事に対する差額代について、加算の方向で検討されているお話もお聞きしたが、全国的に病院経営はどれも苦労されていると感じた。

【のじまスコーラ】

「スコーラ」とはイタリア語で学校という意味とのこと。過疎化や人口減少の影響で閉校した小学校が、年間 15 万人も訪れる人気の施設に生まれ変わったと知りお伺いしたが、当日は平日にもかかわらず、やはりたくさんの方で賑わっていた。

説明では、まず新入社員の研修の一環で、施設の運営を行っている側面もあるとのこと。また、特に淡路島の食材などにこだわっておられ、地域住民も多く参加する毎年恒例の夏祭りや、定期的な合唱教室など地域との交流の拠点とされているとのこと。

地域活性化のシンボル拠点として、企業、自治体、PTAなどの組織団体などから視察のニーズが多いとのこと、施設としては淡路島の食材を使用した本格イタリアン、無農薬野菜や地元食材のほか淡路島のお土産等を販売、のじまベーカリー（無添加のパン屋さん）、ペットと食事できるテラスがあるカフェ、のじま動物園といった、魅力的な多くの取組みがされている。

施設からは、日本の夕陽 100 選に選ばれた絶景の播磨灘を眺めることもでき、ここが以前小学校であったことを忘れてしまうような空間であると感じた。

- ・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

【一般社団法人三次地区医師会】

医師会の皆さんから、地域医療連携推進法人の仕組みと目的を丁寧に教えていただいたことを踏まえ、長浜の医療再編にも最も重要な点である、協議と納得、継続的にこれからの地域医療を、皆が理解し合いながら進めていく必要性和重要性を特に感じた。中でも、県のリーダーシップがなによりも大切であること。

今回の視察に際し、医師会の皆さんには現在の長浜の状況を様々検証いただいております、どうしてこのような進め方をされているのか理解できないといった主旨の思いを言われたうえで、あらためてこのような状況であれば、時間がかかるように思えるが、それぞれの関係者が同じ立場で地域の医療を考える協議の場をつくる必要があるのではないか。とご指摘いただいた点も、今後の進め方に活かしていきたい。

【みとよ市民病院】

今回の視察は、病室の個室化によるメリットとデメリットを深く考える機会となった。確かに時代の変遷により、プライベートの時間と空間は求められるものの、人によっては人とのつながりを求める傾向も見受けられる。個室化による看護の非効率化やコスト高は否めないものの、感染症対策や看護のプライバシー保護などメリットも多い。

働く方々の意見や知恵による病院づくりが実践され、みとよ市民病院は建てられたと思う点と、その分、働く医療関係者の、『自分たちの病院』という意識が継続されている点が素晴らしいと思う。

もちろんコスト意識は重要であり、今後の施設の建設には十分配慮が必要である。その上で、患者さんに選ばれる、喜んでいただける病院となるよう、現場の声をしっかり反映させながら建設を進める必要を強く感じた。

【のじまスコーラ】

長浜市の大きな課題である施設のスリム化について、目的を明確にしたうえでの活用について、民間のノウハウを大いに活用することは重要である。

市の指定管理者制度による活用を見た時に、すべてが上手く機能しているとは言えないが、地域活性の視点から見れば一定寄与しているものは多い。

将来、人口減少や財政的視点に立った検証と、地域力の源泉としての思いをしっかりと見極めながら、施設を活かすこと。また、施設を減らす、あるいは集約する議論を進めることが大切だと感じた。